



病理診断部 業務実績報告 (2023年 1月~12月)

◎組織診

受付件数	15,251件
作製ブロック数	65,909個
HE染色枚数	86,727枚
特殊染色枚数	37,235枚
術中迅速診断件数	748件
術中迅速診断ブロック作製個数	1,469個
センチネルリンパ節診断件数	100件
センチネルリンパ節診断ブロック作製個数	364個
未染スライド薄切枚数 (免疫染色・外注用など)	29,368枚

◎免疫組織化学 (IHC)

IHC件数	3,893件
IHC染色枚数	18,445枚
ER・PR*件数	570件
Her2*件数	620件
FISH*件数	147件
EBER1*件数	157件

*ER・PR、Her2：酵素抗体法
*FISH：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション
*EBER1：EBウイルス関連リンパ腫、胃がん等の確定診断のための検査

◎細胞診

受付件数	14,327件
迅速件数	261件
総染色枚数	30,223枚

◎剖検 (病理解剖)

件数	26件
うち院外剖検	6件

◎蛍光抗体法

件数	549件
----	------

◎電子顕微鏡検査

件数	348件
----	------

■組織診：

コロナの影響が落ち着き、組織件数と生検・内視鏡件数は増加の傾向です。手術件数の減少により、ブロック及び染色枚数が減少しました。また、手術件数の減少に加え、乳腺部分切除症例を対象とするセンチネルリンパ節の迅速診断が減少したことにより迅速診断総件数が減少しました。

■免疫：

件数は全体的に増えていますが、枚数はやや減少傾向です。Her2の件数は、大腸癌も対象となったため増加傾向です。また、蛍光抗体法は腎臓外科と皮膚科が増えているため増加傾向となっています。

■細胞診：

婦人科検体が全体の半数を占めますが、婦人科検体は減少傾向のため、全体的に昨年より件数は少なくなっています。消化器病変に対する超音波ガイド下の針生検 (EUS-FNA) は増加傾向で、迅速診やセルブロックは横ばいです。

■電顕：

腎生検の総件数は前年に比べ腎臓内科や循環器内科 (心筋症例) が増えたことにより増加傾向です。2023年5月から移植手術中のO時間検体のみでの検索となり腎臓外科の総件数は減少したものの、全症例の半数以上を占めており、移植腎の電顕的検索の重要性は高まっています。これからも臨床医や病理医のニーズに合わせるために症例ごとの的確な電顕写真や所見の提供に貢献していきます。

■剖検：

病理解剖の件数は過去最低を記録した前年に比べ8件増加しました。現在もコロナ感染に関連した解剖も数例あり、引き続き徹底した感染対策は必須です。死因や病因、病態の究明のみならず、臨床診断の妥当性や治療効果の判定、CPCや学生教育など意義のある病理解剖に努めていきます。

臓器移植における病理診断部の役割

2023年12月 日、自治医科大学附属病院に入院中の 歳代の 性 (原疾患はくも膜下出血) から心臓、肝臓、腎臓のご提供がありました。

脳死判定日	2023年12月 日
移植臓器	移植施設
心臓	東京大学医学部附属病院
左肺	東北大学病院
肝臓	大阪大学医学部附属病院
腎臓	自治医科大学附属病院
腎臓	東京都立小児総合医療センター

病理診断部は2023年、脳死判定後の脳死臓器提供のための肝臓組織検査を3例実施しました。提供用肝臓の一部が病理に送られ、臨床検査技師が肝臓を凍結し、クリオスタットを用いて3μm厚に薄切・HE迅速染色を行いました。そして病理医が組織像を鏡検して、移植に適しているかどうかの判定を行いました。また3例中1例は腹水を細胞診用に標本作製し、移植の可否判定を行いました。脳死での臓器提供について、「日本臓器移植ネットワーク」のホームページに掲載されています。

※日本臓器移植ネットワークより掲載許可をいただいております

第41回関東甲信越病理研究班研修会が開催されました!! 織田技師講演!

この研修会では日常業務で抱く疑問を解決できるような様々なテーマの講演を聴くことができました。当院の織田技師も「ISO15189における免疫染色の精度管理」をテーマに講演しました。



病理検体提出についてのお願い

【平日夜間提出の場合】

受付時間：8:30~17:15 連絡先：2257 (内線)
※原則時間外の提出は受付しておりません。時間外の検体提出時は事前に電話連絡をお願いします。連絡が取れない場合は、**ホルマリンに入ったものは室温保存、細胞診検体は冷蔵保存し、翌日の受付時間内 (8:30~17:15) に提出してください。**

【休日の提出のお願い】

受付時間：8:30~15:00 連絡先：2257 (内線) 18218 (PHS)
※原則時間外の提出は受付しておりません。時間外の検体提出時は事前に電話連絡をお願いします。連絡が取れない場合は、**ホルマリンに入ったものは室温保存、細胞診検体は冷蔵保存し、翌日の受付時間内 (8:30~17:15) に提出してください。**

※胆汁・腓液・髄液などの細胞診検体は細胞が変性しやすいため、検査不能となる可能性がございますので、ご注意ください。